

徳島大学の地域貢献

—その目指すもの—

徳島大学副理事(地域連携担当)
山中 英生 (やまなか ひでお)

大学と地域貢献

大学は人材育成や研究開発を通じて、社会に貢献してきました。最近では、地域や産業のニーズに応えて、積極的に協力・交流するといった、より直接的な社会への貢献活動が期待されています。このことは、以前から多くの大学で実際に取り組まれていたことです。それが、平成18年に、国の法律である教育基本法第7条に「大学は：社会の発展に寄与する」という表現が加えられ、教育・研究に次ぐ大学の第三の使命であることが明記されるようになっていきます。

徳島大学の地域貢献

徳島大学は、平成14年度に全国で15大学が選ばれた地域貢献推進特別支援事業に採択され、全学の組織として地域連携推進室を立ち上げました。全学の教員による多様な地域での取り組みが、「地域貢献事業」として檜舞台に立つことになりました。その後、地域との交流拠点として那賀町のサテライト

トオフィスが開設され、平成19年度には地域貢献事業の実施組織として地域創生センターが設立されます。平成25年度には学部や各センターを統合した徳島大学地域連携推進機構、そして県内の全自治体との連携協定締結など学外との連携を広げています。これらの取り組みは、全国的にも評価されて、平成27年度の日経グローバル社の地域貢献度ランキングで全国第6位となっています。

地域貢献が目指すもの

—Win/Winの地域貢献—

先の教育基本法に戻りましょう。第7条は「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」となっています。つまり、教養と専門能力を持った人材の育成と、真理探究と知見創造のための研究開発に加えて、その成果の提供や伝達によって社会に寄与す

るのが大学なのです。少し難しく言うと「大学は知識の獲得、伝達、応用を担うもの」と言えます。平たく言えば、地域は教育や研究の過程や成果を試したり、確認したり、活用したりする場で、そうした協働の活動自体が地域社会にも役立つといったWin/WinのWinが生まれることこそ、目指すべき姿でしょう。

地域に飛び出して力だめしをしよう

これまでの徳島大学の地域連携の取り組みは、特定の研究分野の教員の関わりが強く、いわば研究の応用面に偏りが見られました。しかし、後述するCOCプラス事業などでは人材育成の面での取り組みが増えています。地域や企業など、学外に飛び出すことで実践力を見につける機会も多くなりつつあります。学生の方々も自分の力を試す場として、地域貢献にトライしてみましょう。

徳島大学の地域貢献

—取り組みと成果—

研究・社会連携部地域創生課

徳島大学では、地域創生を目指し、全学で多様な事業に取り組んでいます。主な取り組みとその成果を紹介します。

COCプラス事業

「とくしま元氣印イノベーション人材育成プログラム」

本事業は、平成27年度から、徳島県内の高等教育機関、徳島県、地元企業等計39機関が事業協働体を組織し、徳島県内における雇用創出・若者の地元定着を目標とする事業に取り組んでいるものです。中でも本学をはじめとする県内6つの高等教育機関と徳島県は、互いに連携し、県内就職率向上を目指す教育カリキュラム改革や雇用

創出等、このプログラムを強力に牽引しています。徳島大学では地域企業と連携した実践力育成インテンシブなどに取り組んでいます。

まちごととファクトリー

徳島新聞社及び徳島県信用保証協会と協定を締結し、連携事業として、地域で「まちごと」を実践している実業家によるコラボレーション企画を通じて、地域で「まちごと」を創り、実践する起業家を創る「まちごとファクトリー」事業を展開しています。この事業からは、地域を支える複数の起業家が生まれています。

サテライトオフィス

地域創生センターは、徳島県下5箇所にサテライトオフィスを設置・運営し、棚田復活への挑戦(那賀町の「地域再



まちごととファクトリー2017キックオフ

生塾)、地域再生人材創出講座(森林資源の活用)(上勝町の「上勝学舎」、事前復興まちづくり・自主防災活動の支援(美波町の「徳島大学・美

多種多様な関係者が集まり、未来思考のアイデアや解決手段を見つけて出す場として、若手事業者、学生等による、助任の丘を利用した「ファーマーズマーケット」、徳島の伝統文化である、阿波人形浄瑠璃の木偶を3Dプリンターで再現する、「伝統にチャレンジ」等、新たな地域貢献の取り組みを行っています。

今後、地域連携をますます発展

させ、成果を上げていくためには、以上に紹介させていただいた取り組みなどで、地域の方々の要望に耳を傾けるとともに、一過性に終わることなく、その地域に根付くように交流を深めることが重要です。さらには、将来的には、地域の方々によって、継続的に自主的な運営のできる事業となるといった、地域での人材育成を進めることも必要と考えています。



地域創生センターは、徳島県下5箇所にサテライトオフィスを設置・運営し、棚田復活への挑戦(那賀町の「地域再

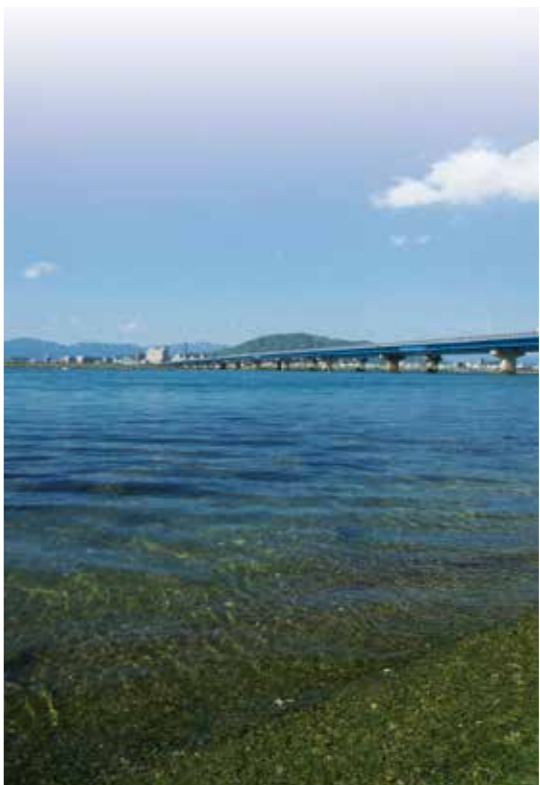
波町地域づくりセンター)、市民講座「にしあわ学舎の郷」(三好市の「にしあわ学舎」)地元住民、事業者等との共創事業の展開(神山町の「神山学舎」)等を実施しています。

フューチャーセンター



3Dプリンター製の木偶頭

ふるさとを 愛することを学ぶ



学生にとって、地域貢献の取り組みは「地域を大切に、わが町を見直す」ことを学ぶことで、自身の成長や経験にもなることです。徳島大学は県外からたくさんの方が来ています。サークル活動での徳島への地域貢献を通して、故郷に帰っても、生まれ育んでくれた我が町のために何かをしたい、という気持ちが芽生えています。ここでは本学の学生による、多岐にわたる地域貢献活動を(紙面の都合で一部ではありますが)紹介します。

音楽は心の地域おこし



フルバンド部代表
池添 佑哉 (いけぞえゆうや)
工学部電気電子工学科3年

フルバンド部はジャズのビッグバンドを主とするサークルです。自分たちのイベントやコンサートだけでは自己満足になりがちですが、地域のイベントに参加することによって、皆さんに喜んでいただけるだけでなく、自分たちの演奏技術の向上にもつながるので、喜んで出演させてもらっています。ただビッグバンドまるごとというのは大変ですので、コンボ(小編成)で出演させてもらっています。「助任の丘」で開催される、徳島の産物や食を通じて地域の方と



多彩な行事でまちづくり



ふるさと愛好会代表
石原 洋季 (いしはらひろき)
工学部化学応用工学科3年



えびす祭り



自然エネルギー探検隊

私たちは、徳島大学のサポート系サークルの一つとして地域に貢献する活動をしています。様々な行事に参加して地元の方々とふれあう体験型のボランティア、学生の主体的な地域のための企画・運営、外部に向けた私たちの活動の情報発信の三点を行っています。昨年の主な参加行事としても、8月「とくしま防災インカレ」、9月「自然エネルギー探検隊」(親子参加型の環境学習)、9月「地球温暖化防止活動学生推進員合宿」(学生推進員の研修と交流)、「すだちの収穫」、12月「沖楽会(沖洲海浜楽しむ会)」で子どもたちと



推進員合宿

上げ、本年1月には「えびす祭り(徳島市通町)」で「みこし担ぎ」、7月の「吉野川フェスティバル」など、多彩な行事に参加してお手伝いをさせてもらっています。私自身もこのサークルに入って、地域貢献の喜びや充実感、また地域のために何かしようと思えばそこに直接足を踏まないこと分らないことがたくさんあることを知りました。県外出身ですが、将来地元に戻っても、あるいはどこかへ行っても、このサークルで学んだことは大きな経験として生かされると信じています。



吉野川フェスティバル2017

交流型ボランティアで地域貢献



学生ボランティア部代表
篠崎 恵 (しのざきめぐみ)
総合科学部社会総合科学科2年

私たちは部名のとおり、学生の立場から幅広いボランティア活動をしています。献血運動の支援、児童施設や障害者施設の訪問など、様々なイベントに参加して地域の方々と交流を深めています。また地域の清掃活動を理解して楽しんでもらえるように、集めたゴミの量を競うという「スポーツGOMI拾い」というイベント(主催・一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ)に、昨年初めて参加しましたが、高校生や地域の方も参加していただき楽しく活動できました。こういう運動が定着して

いくことも応援したいです。毎週木曜日には、大学周辺の清掃活動を実施しています。今後は少しずつ範囲を広げていけたらと思っています。見かけたら声をかけてください。そしてぜひ皆さんも参加してみてください。



藍場浜公園で行われた「拾えば街が好気になる運動」



マチアソビで献血推進活動を行う筆者



大学周辺の清掃活動

各学部の 地域貢献

総合科学部

平成28年4月より、人文・社会科学を中心とした社会総合科学科として再出発した総合科学部では、グローバル化、健康社会づくり、行財政改革、地域活性化などの諸課題を解決できる実践的な人材の育成を目指しています。そのため、教育研究活動では、地域と連携した授業や取り組みを数多く展開しています。

また本年1月より、社会貢献の一環として高校生や一般の方を対象に、毎月最終金曜日18時30分から公開セミナー「人文知・社会知への誘い」を無料で開催しています。学部教員が様々なテーマ・トピックを切り口に、学問研究の面白さや醍醐味について紹介しています。公開セミナーについては学部ホームページをご覧ください。

医学部

徳島県を含め四国地区での医師の地域偏在による医師不足が深刻です。このような状況を背景に、医学部では主要な地域貢

献・地域連携の柱の一つとして、地域医療を支える寄附講座事業に取り組んでいます。平成28年度には5つの寄附講座が設置されるに及び、医師スタッフが地域医療支援のために、連携病院（徳島県立海部病院、阿南共栄病院（徳島県）、高松市民病院（香川県）、公立学校共済組合四国中央病院（愛媛県））の診療活動を行っています。さらに、地域医療の向上を目的とした地域での臨床研究活動や、徳島大学の医学科生の地域医療への関心を高めるための地域医療実習などの教育活動に取り組んでいます。

歯学部

大病院歯科部門としての地域貢献は当然ですが、その他に1979年から行っている石井町での母子歯科保健事業があります。生後8〜9か月の乳児検診から5歳までの小児を対象としたプログラムで、歯の定期的な検診や歯磨き指導を行っています。

また、母子歯科保健だけでなく、高齢化の進む徳島県の中山間地域において企画されている地域包括ケアシステム構築へも参入しています。このシステムは、中山間地域における地域包括ケ

アの構築・推進を目的としており「食」の視点からの生活支援と介護予防を全体的に支援する体制の構築を目指しています。

ほかに、クラブ活動として歯科学研究会があり、学生が保育所や幼稚園などでの歯科検診や歯磨き指導、そして寸劇を交えての口腔保健指導を行っています。

薬学部

薬学部では様々な活動を通して地域に貢献しています。恒例の薬用植物園の一般開放では毎年多くの方に園内をご案内しています。昨年度は生薬の歴史についての展示やハーブティーの試飲会も楽しんでいただきました。夏休みには「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催し、県内の高校生を中心にたくさんの方にわくわくするような創薬体験や薬剤師体験を楽しんでいただいています。また大学祭では県の委託を受け、薬物乱用防止の展示やパンフレット配布など啓発活動を行っています。臨床薬剤師交流ネットワークや薬学部卒業教育公開講座を開催し、地域薬剤師の情報交換や卒業教育の場を提供することも私たちの重要な活動の一つです。

理工学部

科学体験フェスティバル in 徳島

「さわって、つくって、楽しむ科学」のコンセプトのもと、小中学生に対して科学する心を育成することに主眼を置いた「科学体験フェスティバル in 徳島」は、1997年から数えて今年21回目を迎えました。これまで、徳島県内の小・中・高等学校、大学、地元企業、官公庁等のご協力により、本学工学部・理工学部教職員や学生とともに多数のブース展示を実施してまいりました。例年、来場者数は8000人を超え、徳島においても夏休み期間中の恒例イベントとして定着しています。今年も、「マジックワールド」をメインテーマとして、8月5日（土）、6日（日）に、本学理工学部キャンパスにおいて開催しました。

生物資源産業界学部

徳島大学アグリクラブの活動を通じた地域貢献

生物資源産業界学部1期生の有志39名により創設された「徳島大学アグリクラブ」。彼らの活動の本拠地である生物資源産業界学部農場は石井町にあります。この石

井町は、県の「次世代育成・六次産業集積特区」の認定を受け、藤野菜（紫色の野菜）のブランド化への取り組みを行っています。アグリクラブは、この事業に参画し、農場で藤野菜の作付けを行ったほか、藤野菜イベントでのPR活動にも参加しました。これら活動は新聞にも大きく取り上げられ、本学部の広報にも一役買っています。今後は、これら活動に加え、農場で地元小学生の総合学習支援（共同での作付け・収穫）なども行う予定です。

